

場面の移り変わりを捉えるための絵日記の活用

実践場面

小学校第4学年

「3年生での学びを生かしながら、同じ指導事項で新たな教材を学習する場面」

ねらい

すでに価値付けした指導事項であっても、教材が変わるとその活用・発揮は難しい。そこで既習を想起できる言語活動を設定することで、身に付けた資質・能力を活用・発揮し、さらにその定着を図ることができるようにする。

【アイデアのポイント】

学年が上がれば教材の難易度も上がる。場面の变化も捉えにくくなる。そのため授業は一斉になりがちだが、誰でも書いた経験のある日記を言語活動として取り入れることで、児童が主体的に場面の移り変わりを捉えることができるようにすることを目指す。

教材名 一つの花

時数 5時間

指導目標

- ◎場面の移り変わりと結び付けながら登場人物の気持ちの変化を想像する。 (読むこと(1)工)
- 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、感じ方の違いがあることに気付く。 (読むこと(1)才)



単元計画

- 1 全文を通読し、設定を確かめ、内容を捉える。
- 2 ゆみ子の気持ちの変化を想像する。
- 3 考えを共有する。
- 4 学習を振り返る。

※「2 ゆみ子の気持ちの変化を想像する」でアイデアを実施する。
【本文を「一つだけ」に着目した母の日記で表すことで、場面の変化を捉えようとするアイデア】

【2 ゆみ子の気持ちの変化を想像する】

※第2時としているが状況に応じて複数時間を当てる

- 1 前時でまとめた場面設定を確認する。
- 2 「母の日記」を書く。
- 3 ゆみ子の気持ちの変化を想像する。
- 4 本時の学習を振り返る。

通常、場面ごとにゆみ子の言動を本文から探し出し、それを基に「どのように変化したのか」「なぜ変化したのか」をまとめていく。



この単元で重要なのは「場面の移り変わりと結び付けること」である。しかしこのままでは、「叙述を基にゆみ子の心情を読み取った」に過ぎず、目標の達成はもちろん、3年生での学びの活用・発揮も難しい。

そこで、「母の日記」という形で場面を貫きながら、ゆみ子の気持ちの変化を読み取っていく。日記は情景描写や登場人物の言動を基に綴っていくが、今回は最もゆみ子を象徴している「一つだけ」をキーワードにする。

ゆみ子の気持ちが分かる
ような絵を簡単に描く

・ゆみ子やお父さんの言動
・情景描写
等の叙述を基に、お母さんの
言葉で「その日のゆみ子」を
綴っていく。

【絵日記の約束】

・前時の場面分けを基にするが、同一場面でも変化があると考える場合には複数枚作成可とする。
・ゆみ子の気持ちを最も表す言葉である「一つだけ」に関する日記にする。
など



今日もゆみ子は
「一つだけちょうだい」
とおやつをほしがった。
「もっと」と言っっては
もらえないので、代わりに
必ずもらえるこの言葉を
使うようになった。
きつと私のせいだ。



お父さんに、ゆみ子が
かわいそうだと書いた。
するとお父さんは、山ほ
どちようだと両手を出
すことを知らない方がか
わいそうだと書いた。
高い高いでわらうゆみ子
を見て、なみだが出た。

【第3時に向けて】

第3時では、叙述との結び付け
方により多様な想像が生まれるこ
とを共有を通して学ぶ。叙述を根
拠にすることに関しては一統する
が、どの叙述を基にゆみ子の姿を
切り取るかについては児童に任せ
ることにする。



お父さんに、ゆみ子が
 かわいそうだと言った。
 するとお父さんは、山ほ
 どちようだと両手を出
 すことを知らない方がか
 わいそうだと言った。
 高い高いでわらうゆみ子
 を見て、なみだが出た。



今日もゆみ子は
 「一つだけちようだい」
 とおやつをほしがった。
 「もっと」と言っては
 もらえないので、代わりに
 必ずもらえるこの言葉を
 使うようになった。
 きっと私のせいだ。

※第2時で使用する「母の日記」の例